

令和3年度 第1回 よこすか地域支え合い協議会 会議録

開催日時：令和3年（2021年）7月30日（金） 14時～16時

開催場所：横須賀市立総合福祉会館5階 視聴覚研修室

出席者：【構成員】松尾 健一、森 弘樹、沼崎 真奈美、小林 二三代、九鬼 貴紀、
春山 誉夫、磯崎 順子、小川 喜久雄、加藤 春樹、佐野 美智子
鈴木 敬、川名 理恵子、藤崎 啓造、青木 則幸、椿 雄一、普川 嘉子
（敬称略、順不同）

【事務局】福祉部地域福祉課 田中慎一、中山ちひろ、浅羽優貴佳、小松原優斗

【傍聴者】なし

1. 開会

座長の司会により開会した。

2. 傍聴者及び配布資料の確認

傍聴者の確認を行った後、配布資料を確認した。

3. 議事

（1）新構成員について

資料1に基づき、事務局より新構成員の所属と名前の紹介を行った。

（2）各地域支え合い協議会の設置状況について

資料2の配布をもって説明に代えた。

（3）前回会議の振り返りと報告・共有

① 事務局より

資料3に基づき、事務局より前回の協議会（令和2年11月19日）において3つのグループから出された意見とそれに関連する市役所関係課が行っている取り組みを報告した。

② 構成員より

3名の構成員より、所属する組織の取り組み等について情報共有があった。

（ア）地区ボランティアセンターの今後のあり方について

構成員：地区社会福祉協議会（以下、地区社協という）が設置・運営している地区ボランティアセンター（以下、地区ボラセンという）の今後のあり方について意見交換を行っており、7月の中旬に全ての地区との意見交換を終えた。今後は、

各地区が目指すボランティアセンターに向け、具体的に動いていくことになる。

意見交換の中で、本協議会の議題でもある地域の支え合い活動について、活動の一翼をボランティアセンターが担うことができないかということをご提案した。また、支え合い活動を進めるにあたり、これまで進めてきた無償性・無給性を原則とするボランティア活動に加え、ワンコイン程度の有償の活動を行ってもよいのではないかとすることも併せて提案した。

ただし、地区ボラセンが各地区に設置されて約20年が経過している中で、地区ごとに考え方や運営の形態が異なる部分がある。したがって、全ての地区で一律に有償の仕組みを導入するのではなく、それぞれの地区の考え方や地域の特徴に応じて進めていくべきだと考えているので、地域の皆様と相談しながら、今後具体的なアプローチを地区社協に行っていく。

(イ) 新役員・リーダー研修会について(6月21日開催)

構成員：横須賀市老人クラブ連合会(以下、市老連という)では、「心身共に健康で文化的な生活を楽しむ」、「住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる」、「支えられる側と支える側としての存在」の3つを目指すこととして掲げて活動をしている。

毎年、新しくできた老人クラブの会員や新たに老人クラブの役員になった人を対象に、老人クラブのサポートや横須賀市・神奈川県とはどのような関係なのかを知ってもらうこと、また友愛チームの活動を広げてもらうことを趣旨として研修会を行っており、今年も6月21日(月)に開催した。

研修会は、特に友愛活動の普及というところに主眼を置いた内容とした。安針台のアンセドフランという友愛チームでは、有償又は無償で庭の掃除やゴミ出しなどのボランティア活動を行っている。こういった活動を横須賀市全域の隅々まで老人クラブで担っていければと思いつけている。現在、市老連に登録しているクラブは112クラブあり、そのうち友愛チームを結成しているクラブは37チームである。将来的には、すべてのクラブに友愛チームを作ってもらい、地域共生社会に向けての一翼を担っていければと思っている。地域の方々や行政、民生委員・児童委員(以下、民生委員という)、社会福祉協議会などの組織との関係を積極的に作り、連携を進めていくことができれば、地域の支え合い活動をさらに進めることができると思っている。

(ウ) 夏のボラ市とのたろんキッズデイについて

構成員：夏のボラ市とは、横須賀市立市民活動サポートセンター(以下、市民活動サポートセンターという)に登録されている団体の協力を得ながら、ボランティアを

したい人や市民活動を体験したい人向けに「場」を提供してもらい、市民の方々や夏休みのお子さん、学生に市民活動を体験してもらおうという趣旨で行っているイベントである。毎年約 30～40 団体にエントリーしてもらっているところ、今年はコロナの影響で 10～12 団体くらいのエントリーとなり少し寂しいところではあるが、こうした状況の中でもなんとか続けようということで団体の支援も含めて進めている。例年、横須賀市社会福祉協議会ボランティアセンターや横須賀市生涯学習センターと協力して冊子作成やPRを行っているが、今年は初めて横須賀市産業交流プラザのイベントも掲載し、みんなで協力してPRに取り組んでいる。

また、市民活動サポートセンターでは、8月28日（土）にのたろんキッズデイが行われる予定で、フィンランド発祥のアップサイクルを中心としたイベントを予定している。緊急事態宣言が発出されるという中で心配なところもあるが、毎年夏に行われているということでお知らせする。

(エ) 神奈川県高齢者福祉施設協議会

構成員：神奈川県高齢者福祉施設協議会についてご存じでない方もいると思うので、周知という形で広報誌を配布させていただく。この団体は、社会福祉法人が設置・経営する事業者が加入することができる団体で、会員施設の職員に向けた研修や現場の声を中央に届ける政策提言、県民や市民の方々への介護や福祉に関する普及啓発活動、福祉施設の人材不足を受けての外国人人材とのマッチング事業、コロナ渦における応援物資の提供も行っている。こうした活動を行っている団体ということで、ご紹介をさせていただく。

(4) 各チームでの協議（資料4）

資料4に基づき、事務局から、昨年度とは異なるチーム編成及びテーマを設定し協議を進める方針を説明し、承認された。

承認後、選定したテーマに基づき、各チームに分かれて協議を行った。

【1. 介護事業所と地域のつながりづくりについて】

① コロナ禍における事業所の現状と課題

- ・ ワクチン接種が進まないと介護事業所と地域のつながりづくりは困難である。
- ・ 介護の現場が崩れると医療も成り立たなくなる懸念がある。
- ・ 感染症対策には特段配慮をしているところであるが、注意を払っていてもクラスターが発生してしまう等、各介護事業所は疲弊している状況だと思う。
- ・ 事業所の場所を地域住民に活用して欲しいという思いがある通所介護事業所もあるがコロナ禍では一層難しくなったと感じている。
- ・ なお、通所介護事業所の場合を活用したい事業所がいた場合に、どのようにすれば地域とのつながりづくり等に活用できるのか、方法をガイダンスすることも課題だと思う。
- ・ 訪問介護事業所は、介護の専門職として居宅において具体的に支援を行っているわけだが、多くの事業所で人材不足が言われている。地域住民による支え合い活動が広がると、介護の専門職は、より専門的な支援が必要な人へサポートすることができると思っている。
- ・ コロナ禍で高齢者の身体機能が著しく低下していることを懸念している。
- ・ 高齢者の暮らしに必要な支援としては、身体介助や家事援助等の生活援助だけでなく、見守りやワクチン接種の予約方法など支援が必要なことは多々ある。介護事業所として利用者の方へ見守りや声掛けするのは、介護報酬として評価されていないものでありボランティアの精神である。
- ・ 介護事業所では支援が難しい日々のゴミ出しや見守り等、地域の民生委員が中心となって支援してくださっているが、民生委員も高齢化である。民生委員だけでなく幅広い世代に関心をもって欲しい。
- ・ 正しい情報を共有することが重要であるため、タイムリーな情報共有も課題だ。ワクチン接種に関する情報共有を一例にあげれば、正しい情報がタイムリーに共有できていないように感じたところである。

② コロナ禍における工夫

- ・ 現在は感染対策の観点から、多くの施設でボランティアをお断りしており、家族でさえも直接の面会ができない状況になっている。対面でのふれあい等ができない分、オンライン面会等、デジタルを導入する動きもでてきている。デジタルを活用する等、新しいことを導入することで、仕事の改善につながる可能性があると感じている。
- ・ ある事業所では弁当の配布を行っていたが、視点を変え、取りに来てもらう方法に変更したとのこと。コロナ禍で、集まって会食する等の機会がもてないが、事業所が地域の拠点となることを目指した取り組みである。

【2. 地域活動への参加促進や活躍の場の創出について】

① 各組織・団体の取組や課題について

横須賀市生涯学習センター

- ・ 学んだことを次につなげるために講師デビュー講座を開催している。
- ・ 一方で講座に勉強に来るだけの方も多く、次にどうつなげるかは課題である。

横須賀市社会福祉協議会

- ・ 不足しているボランティアに関する講座を開催し、グループ化を図っている。
- ・ 心の病をお持ちの方が、仕事ではなくまずはボランティアからと医師に勧められることがあり、そのような方の居場所づくりやグループ化の取り組みを行っている。支援や悩みの共有をするとともに、使用済み切手や赤い羽根共同募金の資材の整理などの軽作業を行っている。

横須賀市シルバー人材センター

- ・ シルバー人材センターは就労目的で登録し、7～8割の方が就労している。
- ・ 他者とのつながりを楽しむ目的で、多様なサークル（男の料理教室、着付け、日本酒、小物づくりなど）があり、講師も会員が担っている。
- ・ 会員は仕事づくりについての意見交換なども行っている。
- ・ また、仕事に関する研修を無料で受けることができる。

市民活動サポートセンター

- ・ 市民活動に参加していない方へのアプローチが課題となっている。
- ・ デビューのきっかけづくりとして、活動団体の紹介を行っている。聞けば始めたい内容だが、実際の参加に至らない点が課題である。

② コロナ禍における取組等

健康長寿課

- ・ コロナ禍で認知症予防の教室などが、なかなか開催できていない。
- ・ コロナ禍でもできる取り組みとして、DVDの配布やHPへの動画掲載、アプリ「みんチャレ」の実証実験などを行っている。
- ・ 「みんチャレ」は3日坊主防止を目的に、ウォーキングや勉強など様々な目標設定に対し、5人1組で行うもので、習慣化やつながりづくりにつながるというものである。

市民活動サポートセンター

- ・ 地域向け情報交換 SNS の「ピアッザ」についても青年会議所に協力いただいて、会員向けに講座を開催した。
- ・ みんチャレも市で協力いただけるなら、会員向けの講座を企画したい。

横須賀市生涯学習センター

- ・ コロナ禍でオンラインというのも大切だが、開講に対しては感謝の声もいただき、対面の重要性も改めて感じた。

③ その他 地域でのつながり

横須賀市社会福祉協議会

- ・ 町内会の役員などは担い手不足だが、いきなりその役を担うのはハードルが高いので、まずは地域の同好会やサークル活動への参加を促進した方が良いと感じている。
- ・ 自分の住んでいる地域の話になるが、体育系・文化系ともメンバー不足や高齢化などの課題があり、周知が必要と感じているが、サークル活動の周知は町内会ではバックアップしにくい部分もあるので、個人的には自分が所属している体育振興会で地元地域の同好会やサークル活動の情報を冊子にするなどの取り組みができないかと考えている。

横須賀市生涯学習センター

- ・ ボランティアや地域の役（民生委員など）について、役割などが十分認知されていないので、紹介する講座を開催してみたい。

【3. 地域における支援に向けて】

① コロナ渦における取組と課題

八幡町内会の取組紹介

- ・ 八幡町内会では、今年度、防災名簿作成のために町内 1920 世帯に書類を配布したところ、回収率が 90%と非常に高かった。そのうち、災害時に誰かの支援を必要とする人は 120 世帯であった。支援が必要な人が多かったので、消防団にも声をかけた。八幡町内会には、消防団が 5 分団あるため、要支援者がいるときは町内会長から分団長に支援を要請する了解を得た。消防団員は、現在 20 名いる。町内会と消防団で協力し、若い人にも消防団の活動に参加してもらえるようにしたい。
- ・ 町内の友愛活動など、老人会の活動に参加している人は、時間的な余裕があり、非常に元気な方が多くいらっしゃる。八幡町内会でも、老人会の方たちには、地域全体の助け合いに積極的に参加して欲しいとお願いしている。
- ・ 町内には青年部もある。地域福祉の向上のため、地域の人々の要望と活動をどうマッチングさせていくかが重要。また、ボランティア活動には資金面でのバックアップが必要。町内会費が年間 2000 万円（1 か月の町内会費は 350 円）になるので、ボランティア活動を行う団体に対して、資金を提供するこ

とで、組織的な福祉の体制を作っていかなければと思っている。

- ・ 次の世代を見つけておくことが大切。イベントを通じて、適任だと思う方がいれば声をかけておくことも重要である。また、例えば、中学生のお母さんに声をかける場合には、「お父さんにも声をかけておいて」と伝える等、地域の支え合い活動の中心を担っているのは主に高齢者だが、次の世代を育てていくことや、子育て世代等の中間層へも働きかけることが必要である。
- ・ 中間の世代をどう組織化するかが課題だと感じている。
- ・ コロナ禍で小学生からは「学校がつまらない」という声を聞く。例えば、給食中の会話も控えざるを得ない状況であるため、学校での楽しみが少なくなったということだ。子どもたちがかわいそうなので、子どもたちを盛り上げようという有志で、子どもたちへ花火を配布する企画を行う予定だ。市長室にもお願いに行き、いい取り組みだと言ってもらえた。

シニアサークル安針台の取組紹介

- ・ 老人会では感染症対策のため飲食なしで集まっている。ヨガ・ダーツ・植物に名前を付ける活動などは続けている。去年、消毒液が手に入らなかった時期には、次亜塩素酸水を自分たちで作って、会員全員に配った。マスクも配布した。コロナでなかなか集まれず、会えないので、エコバックを作って配ったり、何か訪問するきっかけを作って家に会いに行くように工夫した。誕生日会ができなくなったため、代わりにお菓子や赤飯を家まで届けている。9月21日はテイクアウト誕生会を企画している。プレゼントを取りに来てもらう形にし、取りに来た時にみんなに会える機会にしたい
- ・ 去年は、マンションで孤独死が3件あった。熱中症やお風呂の事故で亡くなった。そのことをきっかけに、横の連携がとにかく必要だと感じた。民生委員・自治会・防犯パトロール・社協の人たちで集まって、定例会を始めた。横の連携は、直接会って顔が見える関係になるのが大事。
- ・ 防犯パトロールでは、顔が見えるように時間帯が重なるように工夫している。月報を出しているが、書面上でも交流ができるように工夫している。書面では、なるべく写真や絵をたくさん入れて読みやすくなるようにしている。
- ・ 横のつながりや顔の見える関係を地域の中で作っていくことがとにかく重要だと考えている。

民生委員児童委員について

- ・ 7~8月はひとり暮らし高齢者の調査をしている。市内のひとり暮らし高齢者は、1万人を超えている。民生委員には町内会・自治会と連携をとるよう

にと伝えている。しかし、町内会長・自治会長との関係作りがうまくいかない地域もあるようだ。町内会・自治会の話し合いに入れてもらえない民生委員もいる。町内会館をいきいきサロンで使わせてもらいたいが、貸してもらえないところもある。

- ・ 地区社協が運営する地区ボラセンに有償活動を導入してみてもどうかという話が横須賀市社会福祉協議会からあった。導入するのであれば、地区内の関係団体同士の横のつながりが大切だと感じた。
- ・ 地域における活動を円滑に行うためには、横のつながりを作っていく必要がある。そのためには、町内会・自治会を始めとする地域組織との関係を築いていかなければと思っており、そこをどのように進めていくかが課題だと感じている。

多世代交流の事例紹介

- ・ ある町内会では、コロナ禍で子どもたちの楽しみが減っていることを懸念し、町内の陶芸クラブが子ども会と協働し、イベントを行ったところたくさん参加があったとのこと。子どもだけでなく、陶芸クラブの高齢者も楽しめたイベントとなり、子どもたちやその親との交流のきっかけになったと聞いた。何かきっかけがあれば、若い世代と出会える機会となるようだ。

(5) その他

特に発言なし

4 閉会

次回の会議の日程は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮のうえ、事務局が日程調整することとし、座長の挨拶により閉会した。

※この議事録は委員等の発言の要点筆記である。